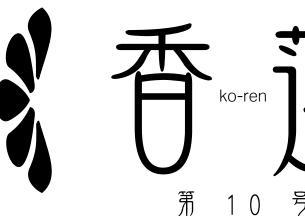
浄土 宗 方 便 山 善 立 寺





第 10 号 平 成 二 十 九 年 盆



### ごゅうねん ②十**念の唱え方**

「南無阿弥陀仏」と十遍唱えるのが十念! 浄土宗の法曹では、

お坊さんも参列者も一緒にお唱えするので、 ぜひご確認ください!

なむあみだぶ

10

なむあみだぶ

なむあみだぶ

5

なむあみだぶ

なむあみだぶ

なむあみだぶ

なむあみだぶ

なむあみだぶ なむあみだぶ

息つぎ

9唱目だけ「つ」まで発音します

ポイント!

10 唱目はゆっくり唱えます

むあみだぶ

4唱目、8唱目を終えたところで、

### 浄土宗 きほんのき

### ①合掌の仕方

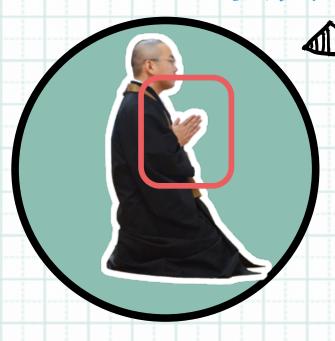
宗派によって異なる台掌の仕方 浄土宗はナナメ 45 度がポイントです!

### ポイント!

- 1. 手の高さは<mark>みぞおちのあたり</mark>
- 2. 指先の向きはナナメ 45 度
- 3. 手のひらはしっかり合わせます



### 拡大!!



### ポイント!

ワキはタマゴ<mark>を1個くらい開く感じ</mark>。 こわばらず、リラックス。



修行は貴重な時間

教室を併設したレストランを経営さ もあります。現在も横須賀市で幼児 数のレストランを経営する実業家で

れています。

## 副住職小路(以下、小路)

は、せわしない現代社会において 問題に集中できる。そういった環境 テレビや電話を気にせず、目の前の はどうでしたか。 のは、京都の大本山知恩寺で行われ 土川上人 (以下、土川) た修行のときでしたね。修行の印象 私が初めて土川上人とお会いした 修行はとても貴重な時間でした。

侶になった土川憲弥上人です。 土川上人は横須賀市の浄土宗浄楽 7回の対談は私の修行同期であ り、私と同じく結婚を機に僧 入った者として、家から離れ、自分

程を修了されるなど、日々研鑽を積 寺の副住職であり、布教師の専門課 まれています。一方、出家前から複 たことってありますか。 たのは、とても意義のあることでし と向き合える時間を得ることができ た。修行を終え、僧侶になって変わっ

出家で変わる意識

になりましたね。 の方に見られていると意識するよう 常生活での意識が変わりました。 本当に小さなことですが、常に多く えば、交通違反をしないようにとか、 とても小さなことですが、 日

ことはできると思っています。 出会うことに対し、真摯に向き合う せん。失敗もします。しかし、日々 凡夫であり、特別な人間ではありま 法然上人が仰るように、私たちは

ると信じています。 ちだからこそ、伝えられることがあ ありません。俗世から入門した私た **あれば、構わない**』と仰っています。 て、『妻帯により念仏がすすむので は僧侶が結婚することの是非につい 葉はありがたいですよね。法然上人 にとって、これほど嬉しいお言葉は まさに結婚を機に仏教と出会った私 **小路** 法然上人が直接遺されたお言

大変贅沢なことだと感じました。

す。私たちのように俗世から仏道に てはありがたかったなと私も感じま 厳しいものでした。しかし、今となっ **小路** 修行は肉体的にも精神的にも

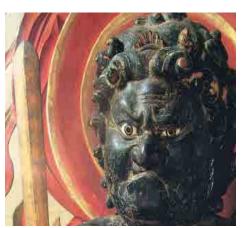
4



(全て運慶作/国重要文化財) 阿弥陀如来座像 勢至菩薩立像



毘沙門天立像(運慶作/国重要文化財)



不動明王立像(運慶作 / 国重要文化財)



2人の子を持つ親でもある土川上人

# 今の教化と未来の計画

めに努力しなければなりません。 かを伝えることが大切です。そのた 今まさに悲しみある方々にお念仏の に当山のような小さなお寺は今後護 教え、極楽がどのような世界である 持するのが一層、難しくなっていき 方法も考えなければなしません。特 一方、お寺の経営者として、10年 20年後も寺院を護持するための 私たち浄土宗僧侶にとって、

もっと気軽に付き合って欲しいです 小路 仏教は怖いものでもない。

計 たとえば、火傷したとき、対 プローチが課題であると感じます。

処法を知っておけば、慌てなくて済

# 同世代の方に伝えるには

盐 て一緒に学んでいくことが大事だと についてを知ってもらうこと。そし のかということは知らないんです。 体的にどんな教えでどんな事をする いイメージがあります。しかし、具 ため、『宗教』と言うとちょっと怖 宗教が関係した事件などを見てきた なので、まず私たち浄土宗の教え 私たちの世代は、幼い頃から

感じてます。

その未来を担う、私たちと同世代の 必要があるということですね。特に 小路 今と数百年先の両方を考える

いわゆる『子育て世代』への布教ア

と考えています。 び、体験するような催しができれば 今後は親と子どもが一緒に仏教を学 みます。それと同じように、死への トランに幼児教室を併設しました。 **す**。そう考えて、経営しているレス 対処として仏教を知ってほしいで

# これから行いたいこと

寺が地域コミュニティの中心となる らっしゃった方にも仏教を伝え、お が5体いらっしゃいます。観光でい 重要文化財である運慶作の御仏像 土川 浄楽寺はありがたいことに国 ような寺院造りを行いたいと考えて

### 平家物 話 ょ ŋ **〜**敦 盛 の最後 5

# 罪の軽重をいはず、 ただ、念仏だにも申せば

# 往生するなり、別の様なし

### 熊谷直実と平敦盛

平敦盛公です。
だ子供でした。この若武者こそ、 自分の子と同じくらいのまだま 武者の顔を見たところ、なんと 引きずり下ろし、首を取ろうと若 げようと躍起になっていました。 源氏の武将、熊谷直実は武功をあ源平の決戦、一ノ谷の戦いにて、 平家の若武者を見つけ、馬から

う。はやく首を取ってください 悲しむことか』と思い、 討ち取ればこの子の親はどれだけ むいただけで心配する。この子を とだけ言いました。 します」と言ってしまいます。 お名前を教えて下さい。お助け 私の首はよい武功になるでしょ 直実は『私は子どもが少し擦り しかし敦盛は申し出を固辞し、

なんとかこの子を助けてあげた が、後ろには味方が迫り、自

> 思った直実は、せめて自分の手で 法然上人に尋ねます。 そして自分の犯した罪について、 おもむろに刀を研ぎ始めました。 嘆き、法然上人の元へ向かいます。 事をしなければならないのか』と てしまったのか。 どうしてこんな みます。『なぜ私は武家に生まれ と泣く泣く敦盛の首を取ります。 分が逃しても誰かに討たれると 法然上人との面談の際、直実は この戦の後、直実は深く思い悩

出家し、日々、敦盛の供養を欠か ていた直実は号泣しました。 手足の一本も切り落とそうと思っ 様なし」とお答えになりました。 だにも申せば往生するなり、 しませんでした。 罪の軽重をいはず、ただ、念仏 その後、直実は法然上人の下で その言葉を聞いて、切腹するか、 ことの顛末を聞いた法然上人は



# 熊本復興ボランティ



道の復旧作業をお手伝いしまし

き2度目です。今回は南阿蘇鉄

アに伺いました。昨年に引き続 青年会で南阿蘇村にボランティ

5月17日~19日、松本浄土宗

た。現在、

南阿蘇鉄道は約半分

阿蘇山付近の区間がいまだ運休

の区間が再開されていますが、

中です。私たちは線路の除草作 ルほど除草することができまし 業を行い、1日で約三百メート

阿蘇の日常の風景が一日でも早 た。本当に小さな一歩ですが、

く戻ればと願っております。

様のお陰様でございます。誠に 奉仕活動を行えるのは、 支援いただいている檀信徒の皆 また、当山がこのような社会 日頃ご

ありがとうございます。



6

### しだれ桜の伐採について

平成29年6月23日に本堂裏手、清水同姓様 墓地のしだれ桜を伐採致しました。

ここ数年、大きな枝がポロポロと落ち、その都 度撤去を行ってきました。新聞等で大木が突然倒 れ、人に怪我を負わせたり、物を壊す記事をたび たび目にし、気にもなっておりました。

昨年12月に行った剪定の際、植木屋さんにハシゴで上がってもらい、木の状態を確認していただいたところ、地上数メートル上の幹の中心、約8割が腐り、空洞化している。また、その空洞を利用し枝の先端まで羽蟻が上っているとの報告を受けました。まさに皮一枚でなんとか立っている状態でした。

清水同姓の皆様に現状をお話し、相談をしていただきました。現状のまま高所作業車を入れて剪定を続ける、もしくは断腸の思いで伐採するか。

おそらく幹の下部まで腐っているだろうし、近 い将来、台風等で人やお墓の上に倒れたら一大事 になるとのご判断を下さり、今回の伐採を決定 されました。そして、本年4月の通常総会にて、 清水同姓代表の方から伐採について報告がなされ ました。

遥か昔から善立寺に春の訪れを教えてくれ、また地域の方々にとっても思い出の多いしだれ桜です。この決定をするのは断腸の思いがあったと拝察致します。

6月23日、ついに伐採の日を迎えました。大型クレーン1台、高所作業車2台、トラックその他、作業を行う10名ほどの方が集められました。

8時から始まった作業はお昼近くまでかかる大作業になりました。お墓や寺の建物を壊さないように、上から少しずつ枝、幹を切り、それをクレーンで一つずつ釣り下ろす作業の繰り返しです。驚いたことに直径 1m ほどある幹の根元も8割が腐り、手でほじくれるほどボロボロになっておりました。

年輪を数えたかったのですが、腐っていたため 数えることができませんでした。推定 100 年か ら 150 年くらいではないかとのお話でした。

幹のほとんどが腐りながら、皮一枚の厚さで 10m 近い高さの木を支え、枝の先端まで水分、 養分を送っていたのです。この生命力のすごさに 驚かされました。

業者の方の一言が記憶に残っています「切って よかったね。強い風でいつ倒れてもおかしくない 状態でしたね」

伐採には費用もかかりましたが、清水同姓の皆様が費用を出し合い、捻出して下さいました。住職としても名物であったこのしだれ桜がなくなったことは大変残念です。しかし迫っていた危険を避けていただいたこと、その決断をし、費用を捻出していただいた清水同姓の皆様に心より感謝を申し上げます。

善立寺住職











勤めになりました。当山住職 寺ご住職様がお代理導師をお ました。本年は安曇野市専念 法要「御忌法要」が執り行われ 光寺大本願にて法然上人の年忌



### 修

### 正

平成二十九年度

上半期

の活

動

# 熊本復興ボランティア

### 正会(しゅしょうえ)を執り 1月7日、年始の法要「修

は6ページに記載(写真④) ンティアに伺いました。詳細 て熊本県南阿蘇村に復興ボラ 5月、松本浄土宗青年会に

## おじり会館バザ

き、ありがとうございました。 信徒の皆様にご参列いただ 行いました。本年も多くの檀

善光寺大本願御忌法要

4月11日、浄土宗大本山の善

致しました。本バザーは今年 を考えております(写真③) 今後も地域に貢献できる活動 僧有志の会」が行いました。 から活動を始めた「塩尻青年 を行いました。頂いた収益の 館」にてチャリティーバザー モニーホール「しおじり会 部を塩尻市立図書館に寄贈 4 月 30 日 塩尻造花様セレ

# 塩尻仏教信和会 托鉢・花祭り

せていだだきました(写真①) 住職は式衆としてお手伝いさ は随喜寺院として参列し、副

を行いました(写真②) 真言宗松林寺様にて花祭り法要 行いました。その後、5月13日 教信和会にて、恒例の托鉢行を 4月3日から中旬まで塩尻仏

ろしくお願い致します。 年は広丘地区を回ります。当山 いしますので、ご協力のほどよ 檀信徒の皆様のご自宅にもお伺 祉協議会に寄付致しました。来 頂いた浄財より塩尻市社会福

持っていただくきっかけとなれば

この寺報が皆様が仏教に興味を

と願っております。

副住職

小路竜嗣

続けたいと考えております。

# おてらおやつクラブ活動

おやつクラブ」。奈良の浄土宗 親のご家庭や施設、こども食営 お送りしています。 こども食堂に定期的にお菓子を がら参加しており、東海地方の 広がっています。当山も微力な 寺院が始めた活動が今、全国に などにおすそ分けする「おてら お寺に集まった供物をひとり

### 編 集 後

記

| 伝わる」をテーマに今後も制作を | います。この寺報も「見る・知る・ | な気づきを得るのだなぁと感じて | 人は興味をもって初めて、様々 | 目がいくようになりました。 | どを読む際に文字の種類や紙質に | 寺報を作り始めて以来、書籍な |
|-----------------|------------------|-----------------|----------------|---------------|-----------------|----------------|
| 制作を             | ·<br>知<br>る·     | 感じて             | 様々             | 0             | 紙質に             | 書籍な            |

| 今年の回忌法要 |   |   |   |   |   |     |   |   |  |  |
|---------|---|---|---|---|---|-----|---|---|--|--|
| 1       |   | 周 | 忌 | 平 | 成 | 2 8 | 年 | 没 |  |  |
| 3       |   | 回 | 忌 | 平 | 成 | 27  | 年 | 没 |  |  |
| 7       |   | 回 | 忌 | 平 | 成 | 23  | 年 | 没 |  |  |
| 1       | 3 | 回 | 忌 | 平 | 成 | 17  | 年 | 没 |  |  |
| 1       | 7 | 回 | 忌 | 平 | 成 | 13  | 年 | 没 |  |  |
| 2       | 3 | 回 | 忌 | 平 | 成 | 7   | 年 | 没 |  |  |

※休日は混み合いますので、お早めにご連絡下さい。